

アイマスク体験・ガイドヘルプ体験

講師：視覚障害のある方

ガイドヘルプボランティアグループ

目 的

視覚障害のある方生活を知る。

視覚障害のある方の移動手段の一つであるガイドヘルプ体験をし、その役割を知る。

時 間

2時間 （40名位まで）

準 備

アイマスク、障害物等

導入・事前学習

＜想像してみよう＞

目が見えない人はどんなことに困っているのだろう？

もし自分の目が見えないとして、行きたいところがある時、どうやって行きますか？

実際に目の見えない人が外出する時はどうしているのだろう？

講 話

視覚障害のある人の生活について

移動するときに困ったこと等

視覚障害について 目が不自由な人もさまざま（弱視・全盲・視野狭窄・色盲）

ガイドヘルプボランティアの話

体 験

- ① 実際にアイマスクをして歩いてみよう・手引きしよう①
腕をかけて半歩前を歩く
- ② 実際にアイマスクをして歩いてみよう・手引きしよう②
階段を歩く
- ③ 物の位置はどこかな

まとめ

感想を出しあう

発 展

～調べてみよう～

- ◎ 身近にあるガイドヘルプボランティアグループや視覚障害のある人との交流の場など
- ◎ 点字ブロックの役割、使われているところを調べよう
- ◎ 街の中で視覚障害のある人へ配慮されているものを探そう。他にどんなものがあったら便利だろう？

～考えてみよう～

- ◎ 他の移動手段はどんなものがあるだろう
- ◎ 視覚障害のある人が移動する際に妨げとなるものはどんなものがあるだろう
- ◎ 街で視覚障害のある人に出会ったらどうしたらいいか考えてみよう

～交流しよう～

- ◎ 様々なスポーツや趣味を楽しんでいる方がいます。一緒に楽しんでみましょう
- ◎ 盲学校との交流

～学習を続けていこう～

- ◎ 視覚障害のある人の情報伝達方法のひとつである点字について学習してみよう
- ◎ 盲人情報文化センターなどの視覚障害のある人のための情報施設を見学してみよう

アイマスク体験だけで終わってしまうと「目が見えなくて怖かった」「視覚障害のある人はかわいそう」というマイナスイメージだけが印象に残ってしまいます。実際に視覚障害のある方の生活の話を聞くことにより、様々な工夫で仕事や家事・趣味などをこなしていることを知ることができます。また、「自分は目が見えてよかった」という他人事ではなく、視覚障害のある人にとっても自分たちにとっても住みやすい環境とはどんなものなのかを考えるきっかけにしたいと思います。

限られた授業時間の中ではガイドヘルプ技術を完璧に習得することは難しいかも知れません。ちょっとしたガイドヘルプの技術を覚える目的は、街で実際に困っている視覚障害のある人と出会った時に役立てるためでもあります。その際にも手助けが必要なのかどうか、視覚障害のある人自身に聞くことは大切です。